

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第359回

ゴルゴ松本 (TIM)

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和5年6月5日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

辛いと幸せは、
遠い関係ではありません。
辛に一本足すと「幸」。
辛くても、何か一つ足すだけで
幸せになれるんです。

ゴルゴ 松本は、日本のお笑いタレント、漢字研究者。お笑いコンビ「TIM」のメンバーで、ボケ担当。「悪役商会」の元メンバー。埼玉県深谷市出身。ワタナベエンターテインメント所属。深谷市親善大使。

Column

正智深谷高校がある埼玉県深谷市出身であり、深谷市の親善大使を務めるお笑いコンビ『TIM』のゴルゴ松本さんの言葉です。お笑い芸人としてだけでなく、漢字研究者としても非常に知名度が高く、その知名度を高めたのは2011年からボランティアで少年院にて漢字を使った言葉の意味を解説を交えながら更正を目指す少年たちの心に訴えかける『命の授業』と題した活動からでした。今回紹介する言葉もきっと何度も伝えてきたものだと思います。ゴルゴ松本さんは2015年にはこの活動をまとめた著書『あっ！命の授業』を出版。2018年11月には法務省より法務省矯正支援官を委嘱されています。

今回の言葉を知って、私は“幸せを感じる瞬間の中で一番多いことはなんだろう？”と考えました。何によって人は幸せを感じる人が多いのでしょうか。また、何によって辛いと感じることが多いのでしょうか。思い浮かべてすぐに、それは『言葉』だと思いました。会話や音声でもSNSに投稿する文字としてでも、人はかけられた言葉によって幸せも辛さも感じる人が多いのではないのでしょうか。また、一番早く、強く感じるのではないのでしょうか。言葉はコミュニケーションにおいて非常に便利なものですが、あたたかく心を包み込む毛布のような役割も、一生消えないような深い傷を刻み込むナイフのような攻撃性も持つ取り扱いが難しいものでもあります。特に日本語は言い方が何通りもあることから、気づかぬうちに人を傷つけてしまう恐ろしいリスクを秘めていると自覚する必要があります。では、どうすればリスク回避になるのでしょうか。まずはその言葉を発する前に受け手の気持ちになって考えること、より正確に伝えるために言葉を選んだりつけ加えることが重要だと思います。相手や仲間のために注ぐ愛情を今までより1つプラスしてみませんか？